



安芸太田町教育21もみじプラン教育目標 「地球・世界的規模の視野を持ち,世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」										
ミッション 地域社会に貢献できる生徒の育成					ビジョン 主体的で協調的な学びの推進					
学校教育目標 学びを生き方につなぐ教育の創造 めざす生徒像 挑戦 感動 感謝の心をはぐくむ生徒					学校研究主題 深い学びを引き起こす授業づくり ～「知識構成型ジグソー法」を取り入れた単元開発と評価を通して～					
中期 経営目標	短期 経営目標	評価項目及び評価方法			評価基準	担当 分掌	中間 評価	最終 評価	達成状況及び改善策(かつこ内の数値は前期)	評価委員の意見(最終)
学力の向上	学習意欲の向上と自主学習の充実	基礎的・基本的な知識・技能の定着	・生徒質問紙「なぜ学ぶのか自ら考える」の肯定的回答85%以上 ・自主学習60分以上の生徒85%以上	A:80%以上 B:60~80% C:60%以下	教務 研究部	A		生徒質問紙「なぜ学ぶのか自ら考える」の肯定的回答率は72.1%であった。また、自主学習を60分以上取り組んでいる生徒は84.4%で、自主学習が提出できていない生徒が固定化してきている。		
	協同学習の実践	深い学びを引き起こす授業の実践	・生徒質問紙「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答100% ・各種学力調査で、すべての教科の平均正答率等が全国平均を上回っている。	A:80%以上 B:60~80% C:60%以下				生徒質問紙「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答率は100%であった。 9月に全学年で実施した学力診断では、全学年15教科のうち9教科が全国平均を上回っていた。 深い学びは主体性と協働性に大きくかかわることから、「知識構成型ジグソー法」による協同学習の実践研究をさらに進めるとともに、個別最適な学び(生徒が学び方を選択・決断できる幅を広げる)を推進する。		
社会に貢献する力の育成	自らの成長が実感できる	進路指導の充実及び進路実現に向かう意欲・態度の向上	・生徒質問紙「将来どんな大人になりたいか考え、そのために取り組んでいる」の肯定的回答率100%	A:80%以上 B:60~80% C:60%以下	生徒 安全部	A		生徒質問紙「将来どんな大人になりたいか考え、そのために取り組んでいる」の肯定的回答率は90.6%であった。		
	実践意欲の育成	自己肯定感の向上	・成功体験と自信(i-check)の肯定的回答率85%以上	A:80%以上 B:60~80% C:60%以下				成功体験と自信(i-check)の肯定的回答率は83.3%であった。(1年生:81.9%,2年生:82.7%,3年生:85.7%) 「自分には、いいところがあると思いますか。」の肯定的回答率が、他の質問と比較して低いという課題が見られた。(1年生:72.2%,2年生:69.2%,3年生:71.4%) 生徒質問紙の肯定的回答率が低い生徒と学力テストの点数が低い生徒との間に強い相関関係が見られた。このことから、学習面でのつまずきが自己肯定感の低さにつながっていると考えられる。このことから、教育相談などを通して肯定的な評価を行いつつ、個別の学習支援を行い、自己肯定感を向上させていきたい。		
	地域貢献の意欲の育成	地域貢献活動への参加	成果指標 ・社会参画(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・地域貢献活動後の生徒の感想(肯定的記述)	A:80%以上 B:60~80% C:60%以下				社会参画(i-check)の肯定的回答率は86.7%であった。(1年生:83.3%,2年生:87.2%,3年生:90.5%) 三段映のボランティア清掃や地域貢献活動を実施し、実施後の生徒の感想からは肯定的な記述が多くみられた。学校や地域で行うボランティア活動だけではなく、挨拶など日常生活の中で行っているさまざまな活動も地域に貢献していることを意識させ、地域貢献の意欲と態度を育成していきたい。		
信頼される学校をつくる	学校の公開性の向上	保護者・地域への教育公開及び情報発信の充実	・保護者の学校満足度…90%以上 ・教職員の「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答率90%以上	A:80%以上 B:60~80% C:60%以下	総務部	A		保護者の学校満足度は90.3%、教職員の「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答は81.8%であった。コロナ禍のため、保護者とのつながりを十分に持てない時期が続き、学校での生徒の様子や取組が十分に伝わっていない面があった。 感染対策を十分に行いながら、学校行事での保護者の参加枠を増やしたり、授業参観や学級懇談会を実施したりして、学校での生徒の様子や取組を丁寧に伝えていく。		